



う ば ら 海 原

題字河原孝好先生

海城中学高等学校同窓会誌

発行

2024年12月1日

第60号

海原会

発行人 徳光和夫

編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園

TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641

ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>

社団法人「海原会」発足 この先100年にむけ第一歩

ここ数年海原会の在り方に関し検討を進めてまいりました。コロナで検討が若干停滞した時期もありましたが、昨年度検討が進み常任幹事会での審議・検討をいただき、今年度5月18日の常任幹事会で社団法人設立が承認されました。

名称は一般社団法人海原会 会長代表理事徳光和夫 現会長で5月27日に登記申請を済ませました。現在は2024年度の期中ですので今度末まで現在の海原会の体制と併存し、その間に銀行口座の開設など諸手続きを進めてまいります。新年度2025年度より新体制に移行する予定で作業をすすめております。

海原会は創立以来100年を経過いたしました。またこの先の100年を見据え社団法人としての第一歩を来年度から歩み始めます。100年の重みを背負いながらも、新たな第一歩になります。諸先輩が手塩にかけ慈しみ育てたようにこの新しい第一歩を皆様とともに育てていくことが我々そしてこれからの世代の使命であろうと思います。学園にはさらなるご支援を賜りながら綿密に連携してまいります。新しい出発に立ち会えることは大きな喜びでありこの幸せを皆様と分かち合えることに心から感謝したいと思います。日頃のご協力に心から感謝を申し上げますとともに皆様もこの法人の生みの親の一人であるご認識をいただき、一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(昭和41年卒 副会長 森山昭洋)



※海原会は皆様の会費で運営されております。



103回 懇親会

6月10日本校講堂において通常通り
に総会を開催いたしました。200名
余の会員にご参加をいただきました。
コロナが落ち着いたためいつも通りの
参加者を得る事が出来ました。徳光会
長の挨拶・古賀理事長そして大迫弘和
校長のご祝辞により、コロナを乗り越
え海原会と学園が順調に推移発展して
いることが報告されました。森山副会
長から海原会の一般社団法人の正式登
記の報告とこれからの予定が報告され
ました。そして卒年記念品の授与、恒
例のプラスバンドの演奏そして出席者
全員で校歌を斉唱し散会をしました。
散会後はカフェテリアで懇親会を開
催。久しぶりの懇親会に会員の表情も
明るく再会を喜び合う楽しさにあふれ
ました。今年の卒業生である新入会員
の音頭で万歳を三唱し来年の再開を誓
い合つて散会をしました。

(総務委員会)

海原会活動報告

常任幹事会の実施報告

- ・2023年12月3日の常任幹事会では海原会の法人化に向けてご審議をいただき法人設立の具体的作業に入るご承認をいただきました。
- ・2024年5月18日の常任幹事会では法人設立申請及び2023年度決算・令和2024年度の予算に關しご協議いただきご承認をいただきました。なお、決算に關しては4月13日に監査幹事による監査を受け、ご承認をいただいております。また、前年度事業並びに本年度の事業計画に關しましてもご協議ご承認をいただきました。

法人化後の直面する課題の一つはアナログ作業のデジタル化への切り替えです。鋭意デジタル部会などデジタル知識をもつ若手会員を中心に検討を進めて居りますが、すべての手紙やファックスでの連絡や印刷物としての会報を一気にデジタル一本にするご不便になる会員も多数いらっしゃるごことからすべての



古きを訪ねシン・海原会を

海原会会長 徳光和夫

(昭和34年卒)

皆様こんにちは。こうして今総
会に200名の方々にご参集いただ
いてこれほどうれしいことはござい

参加されておりありがとうございます。
今回はコロナ禍後初の懇親会もご
ざいます。皆様との親睦交流を
楽しんでいただけたらと思います。

私も今年齢83才となりましたがお
陰様でまだ元気でございます。生
きているのはたゞいまこの時である
という気持ちで日々過ごしており

お過ごしいただけたらと思う次第
であります。
さて会報の最新号のインタビュー
記事に登場していた若い同窓生が

「OB同士が世代を超えて縦のラ
インを結び、特に50・60代のOBの
皆さんにはその豪快な風を現役生
に吹き込んでいただきたい」と語つ

てくれると言いたいと思います。古
きを訪ねて新しきを知る、温故知
新という言葉があります。でも研
究心の旺盛な海城生、マニアックな
す。とにもかくにも皆様お一人お
一人の力で参加すると同時に作り
上げていっていただきたいと思いま
す。よろしく願ひいたします。

海城生だつたらわれわれを訪ねて
新しい物を起こして欲しい。「温
故知新」の精神でこれからの海原
会も盛り上げて欲しいと思います。
海原会は縦横そして
斜めのつながりも構築
して本当にいい会に
てまいりたいと思いま



会員に等しく情報が伝わる方策を合わせて検討することも重要であると考えております。この問題は見切り発車などという誤解が生じないよう慎重に進めていきたいと思っています。

(総務委員会)

ピアノの音 流れる学園

理事長 古賀喜博

(昭和33年卒)

第103回海原会総会の開催



までに無い新しいものも行われております。とりわけ大迫校長は芸術と言うものが大変大事であるというお考えを持つておられましてその面での改革にも力をいれておられます。これまでも学園では芸術家となった卒業生の美術作品など展示してきましたが、今は昼休みに音楽、ピアノの音が聞えてくるようになりました。

からも私どもは教育の最前線にありたい、常に新しい形を求めてチャレンジしていくつもりでありますので先輩として協力していただきたいと心から願っております。もう一つ生徒たちが活動する校舎についてですが、これから4、5号館を取り壊して新築を計画しています。ただ皆様ご存じのように、建築業界は技術者不足や

誠におめでとうございます。学園にとりまして毎年こうして卒業生方々が母校に集まって頂くことが大変大きな力になっていることを申しあげたいと思います。

大迫校長が校長室ピアノとして生徒に自由に弾いてもらうよう開放しております。校長室の扉も常時開放しております生徒が自由に出入りできるようになっております。実に微笑ましい世界が実現されつつありいい雰囲気が出てきたなと思っております。これ

建築費の高騰などにより、着工が何年も遅れています。来年、再来年には具体化に動きだし新しい教育展開が始まる予定です。いろいろな意味でまたお力添え協力をお願いすることもあろうかと思ひます。その時はよろしくお願ひいたします。

海城でしか獲得できないもの

校長 大迫弘和

本日は第103回海原会定期



す。大学進学の数ではないということは皆様方が思っている海城と今でも何一つ変わっていないと言うことをまずお伝えしたいと思ひます。目の前に倒れそうなのがいたときにとつさに支えるといった行動が出来る、そういうことができることが進学の数字よりも何百倍も大事と思ひて、生徒たちにはそういう教育を考えていきたいと思ひます。

その全人的な成長、人間としての全体の力というものを海城でしか育むことができないものの、獲得できないものを私たちは「海城知」と名付けました。海城でしか獲得することが出来ない人間としての知です。皆様方の中にもそういった海城知と言うものが育まれそれが礎になっていると思ひます。時代によってもそれぞれ個人に

総会の開催心から。お祝い申し上げます。

さて今、学校の進学状況はめざましいものがあります。東大合格者数はベストテンに入つたなどのような結果は出ています。しかしこれは海城の教育が本場に目指すところではないと思ひておりま

いと思ひています。単純な偏差値エリートではなくて人間として正しいことを正しく行える全人的な成長を遂げていくそれが海城生の歩みでありそのための教育を全力を尽くして提供して行くことが海城という学校の使命だと考えています。

決算・予算

会計 昭和62年卒 景山昇一

2023年度決算報告

年度会費・永年会費収入がやや低調で昨年比約12万円の減収でした。支出は概ね予算通りでしたが、通信費が郵送料等の増加により予算を上回りました。

一方で、ホームページの改修を予定していた備品費は、本年も実施しなかったため、4万円にとどまりました。

結果として支出全体としてはほぼ予算通りとなり収支につきましては約4万円の利益計上となりました。なお、昨年度の利益金額を含め次年度に繰り越す利益金額は1116万円となりすべて現預金にて保有をしております。

2024年度予算報告

今年度はコロナもほぼ収束の傾向でございますので通常通りの活動を行う予定です。海原会サロンの出展、ゴルフ会、見学会などを実施してまいります。2024年度予算に関して過去5年間の収入金額の平均及び近年の

傾向を総合的に勘案して予算計上を行っております。

支出にしましては前年度の予算決算を踏まえ予想される支出額を計上しております。会報の年2回発行、吹奏楽団後援、海原会サロン等ほぼ例年と同様の支出予算を組んでおりますが、会報印刷発送費が郵送料の高騰から大幅な増加が見込まれ前年予算を50万円上回る予算といたしました。また、今年度は総会で懇親会を開催いたしますので総会運営費50万円を新たに予算計上いたしました。その他通信費の増額や備品費の減額など含め支出合計は前年予算比100万円の増加となり当年度損益は29万円の損失が計上される見込みとなりました。予算において多額の損失を見込むのは心苦しいところではありますが最も大きな要因は会報の発送費の高騰であることから、メール配信の導入などデジタル化の促進を図っていくことも急務と考えております。

2023年度決算・2024年度予算

(2024年4月1日～2025年3月31日)

単位=円

収入の部	2023年度予算	2023年度決算	2024年度予算	備 考
永年会費	2,200,000	2,140,000	2,200,000	近年の実績を考慮
年度会費	650,000	567,000	650,000	近年の実績を考慮
入会金	3,170,000	3,160,000	3,150,000	卒業生315名を予定
総会参加費	0	0	600,000	総会は懇親会有り200名見込む
寄付金	300,000	368,500	300,000	近年の実績を考慮
雑収入	1,000	61	1,000	受取利息他
合計	6,321,000	6,235,561	6,901,000	
支出の部	2023年度予算	2023年度決算	2024年度予算	備 考
会議費	100,000	177,656	180,000	ZOOM利用料と会議時昼食代
総会運営費	0	0	500,000	総会は懇親会有り200名見込む
会報印刷発送費	4,800,000	4,834,197	5,300,000	発行部数18,500部 郵送料高騰
会報編集費	50,000	47,820	50,000	
通信費	250,000	289,781	300,000	近年の実績を考慮
後援活動補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
慶弔費	20,000	0	20,000	前年予算並みを確保
振替手数料	50,000	49,415	50,000	近年の実績を考慮
賃借料	60,000	62,273	60,000	
事務費	150,000	172,550	170,000	前年実績並みを確保
海原会賞	20,000	30,000	30,000	実績から受賞者3名で予算確保
備品費	200,000	41,200	40,000	前年実績並みを確保
海城祭参加費	80,000	80,000	80,000	前年実績並みを確保
寄付金	210,000	210,000	210,000	成人式祝い金、野球部永代
記念品費	0	0	0	記念品購入予定無し
雑費	-	2,800	0	
合計	6,190,000	6,197,692	7,190,000	
前年度繰越利益金	11,126,059	11,126,059	11,163,928	
当年度損益	131,000	37,869	▲289,000	
次年度繰越利益金	11,257,059	11,163,928	10,874,928	

会報のデジタル 配信について

現在、海原会では年に2回会報を発行し、会員の皆様へ活動の報告やお知らせをしています。上段にある決算と予算をご覧いただければ分かるのですが、海原会における支出の半分以上がこの会報の発行費用となつていきます。会報は郵送にてお送りしていますが、ご存じの通り郵送料は値上がりされ、それが海原会の収支を圧迫しつつあります。

とはいえ、会報は会員の皆様と海原会を繋ぐ大切なツールです。ようやくコロナ自粛も明け、同期会や業種別海原会の活動も活発化していますので、今後も会報の発行ペースは維持していきたいと考えています。

新聞や書籍はデジタル化の方向が明確になってきています。海原会の会報も今後はデジタル化に舵を切り、郵送料を抑えて収支の健全化に努めたいと考えています。

幸いにして、一般社団法人化によりデジタル化への対応がしやすくなります。海原会では、近代化の第一弾として皆様のメールアドレスを使った会報のデジタル配信をする方向で調整に入りました。

会報を紙で受け取りたい方がいらつしやることは、先の常任幹事会でも指摘がありましたので、デジタル化をする一方で希望の方へは従来の紙の会報を郵送することを当面考えております。

デジタル化へご協力いただける方は海原会のHPの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」よりご連絡ください。皆様のご協力、お待ちしております。

(副会長・総務委員長 国井信男)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

訃 報

昭和16	龍野 茂昌	R 2・8
昭和19	加藤 幸雄	R 4・4
昭和20	石井 登	R 3・9
昭和21	清水 繁一	R 6・4・8
昭和23	田村 光司	R 5
昭和24	三ツ木幸次郎	R 2・1・1
昭和24	土屋武次郎	R 5・7・28
昭和24	嶋村 与興	
昭和25	三松 美昭	
昭和25	安座上陽三	
昭和29	小田浩一郎	
昭和30	脇坂 元彦	R 6・4・7
昭和31	岡田 泰憲	R 3・5・29
昭和31	清水 哲治	R 5・11・3
昭和32	小竹 邦人	
昭和34	萩原 正人	R 5・8・25
昭和34	酒巻 公一	R 1
昭和35	広田 康之	
昭和36	上原 隆彦	R 6・8・19
昭和36	吉野 信	R 5・7・12
昭和37	大南 剛	R 5・12・8
昭和38	上山根郁夫	R 4
昭和39	村山 茂	
昭和42	高木 輝雄	H 30・8・24
昭和42	見村 敏郎	H 30・8・24
昭和43	猪股 光二	R 4・7
昭和43	仲野 敏章	R 6・2・8
昭和44	山本 有秀	R 6・3・05
昭和46	安良 博男	R 5・5・10
昭和47	内田 政紀	
昭和48	角 達也	R 6・9・28
昭和50	北川 勉	R 6・2・8
昭和51	岡本 稔	
昭和51	宮田 基久	R 5・30
昭和54	植花 克弥	R 5・7・7
昭和54	小林 雅也	R 6・1
昭和59	市川 真	R 5・1・31
昭和59	藤田 真敬	R 6・11・19
昭和61	富岡 実	R 5・12・20
平成03	宇都宮 祐	R 6・7・7
平成11	岩渕 寿寛	R 6・4

海原会サロン

来場者1300人超

本年も海城祭へ海原会サロンを出版しました。入場制限等もなく通常開催となりました。

今年も「われら海城人」と卒業アルバムを中心とした展示としました。校内ツアーのコースになり海城を目指す小学生とその保護者の皆様が多数訪れ学校の歴史や伝統に見入っていました。卒業生とそのご家族にも多数ご来場いただきました。卒業アルバムで、現役時代のお父さんやお祖父さんの写真を見つけて大盛り上がり、光景が今年も多く見受けられました。今年顕著だったのは現在本校で教鞭をとっている本校卒業の教員の現役時代の写真を見に来る現役生やその保護者の方々がとても多くなつたことです。見つけるとオーとかワとか可愛いか若いかと歓声が上がり一層親しみが深まる様子が見受けられました。卒業生教員の人気の高さをうかがわせる光景でした。「われら海城人」は会報掲載の方々を抜粋して展示しました。多士済々、多方面で活躍するOBを紹介することが出来ました。海城の底力を改めて確認できるいい機会となりました。

サロンへの来場者は1,300名を超え、今年も多数の方々にご来場いただきました。海原会サロンと総会が、ホームカミングデーとして定着するようさらに努力を続けたいと思います。

より内容の濃い皆様に喜ばれる展示はどうすればよいか。皆様のお知恵を拝借しながら今後もこの活動を続けてまいります。デジタルネイティブと言われる世代の若い力、そして歴史や伝統を伝える経験豊かな会員の力も必要です。ぜひ海原会サロンの企画運営にご参加ください。

サロン開催への絶大な協力に心から感謝申し上げますとともに皆様のご来場と委員へのご参加をお待ちしております。

来年も海原会サロンでお目にかかりましょう。

(総支配人 昭和41年卒 森山昭洋)



第11回 海原ゴルフ大会参加者

- | | |
|------------|------------|
| 昭19 小倉 康弘 | 昭52 鷹野 正明 |
| 昭32 鈴木 健義 | 昭53 中村 浩 |
| 昭34 安藤 浩 | 昭55 鈴木 浩 |
| 昭34 徳光 和夫 | 昭55 針ヶ谷 充啓 |
| 昭36 浅倉 政行 | 昭56 溝畑 佳男 |
| 昭36 岡本 隆雄 | 昭57 新井 雅幸 |
| 昭36 齊藤 邦雄 | 昭57 荒尾 純平 |
| 昭39 鶴殿 幸夫 | 昭57 込谷 憲 |
| 昭41 小吹 優 | 昭57 坂本 明久 |
| 昭41 羽根井 泰郎 | 昭57 清村 伸幸 |
| 昭43 永江 学 | 昭57 山田 陽一 |
| 昭44 大工原 光男 | 昭57 吉岡 二郎 |
| 昭46 齋藤 昭廣 | 昭58 安藤 克彦 |
| 昭47 石黒 淳一郎 | 昭58 小坂 橋貴尚 |
| 昭47 里村 豊 | 昭61 森 英信 |
| 昭48 石川 隆一 | 昭62 伊藤 和寛 |
| 昭48 甲斐 彰義 | 昭62 国井 信男 |
| 昭48 萩野 正雄 | 昭62 古市 基彦 |
| 昭48 吉田 雅明 | 昭63 井上 史史 |
| 昭49 金子 弘行 | 昭63 塩田 二郎 |
| 昭50 大西 義典 | 昭65 小川 次弘 |
| 昭51 佐藤 彰展 | 昭68 高橋 智広 |
| 昭51 佐藤 潔 | 昭68 吉野 誠一 |
| 昭51 前垣 圭一郎 | 昭68 若林 侑甫 |

- | | |
|-----|------------|
| 優勝 | 昭43 永江 学 |
| 2位 | 平14 吉野 誠一 |
| 3位 | 昭55 鈴木 浩 |
| B G | 昭41 羽根井 泰郎 |



第11回海原ゴルフ大会 43名参加 優勝は永江氏(S43)

2024年10月23日、紫カントリーあやめコース(EAST)にて恒例の海原ゴルフ会が開催されました。一瞬の雨に降られながらも基本的には秋の好天での開催となり、S19卒の小倉先輩からH14卒の吉野さんまで、56歳の開きがある43名の精鋭が集う絶好の一日を過ごすことができましたことに感謝しております。

徳光会長がドラコンやラッキー7賞をゲットする中、栄えある優勝に輝かれたのはS43卒の永江先輩でした！闘病されていつしやいながらも、優勝という素晴らしい結果を掴み取られたことを心からリスペクトします。おめでとうございます。

これからは海原ゴルフ会は続いていきます。今まで参加できなかった方もタイミングが来た時に参加頂きますし、これまで参加されてきた方も相変わらず参加して頂きますことを期待しております。2025年も同じく紫カントリーあやめコースにて開催します。詳細はまたお知らせしますので、楽しみにお待ちください！

(大会副実行委員長 昭和57年卒

荒尾純平)

親父の会



平成元年卒の山本です。私事ですが、この春から息子が海城中学にお世話になっていきます。10年位前から親父の会という父親限定の親睦会ができました。設立趣旨は思春期の息子とどのように関わればいいのかわからない親父が家庭内で孤立(笑)しないように情報交換しよう！で、そのイベントが10月にありました。なんと海原会との初コラボ！海城卒業生4人にパネルディスカッションしてもらい、在学時代の思い出や海城時代に学んだこと、経験したことが自分の人生にどのような影響を与え

たかなど、自分の息子の将来に悩む親父たちには大変参考となる話ばかりでした。後日のアンケートでも、好意的な反応ばかりだったそうです、4人の方々、本当にお疲れ様でした。

親父の会は各学年10名前後の世話役で運営されていますが、ここ数年は海城OBが世話役になったことにはないそうです。この記事を読んで参加してみたいと思う方がいらつしやいましたら、編集部までご連絡ください。

(平成元年卒 山本 裕)



木村 真さん

- JR東日本
- バンコク海原会

津村 大樹さん

- ソリューション営業
- 文実委員長
- 生徒会長

萩原 慧さん

- 順天堂大学医学部
- 文実委員長

松島 知弘さん

- 外務省
- 文実



編集長の編集後記

◎ 海原会に関わるようになった最初の印象は先輩方がえらく元気なことだった。30も40も年上の先輩がゴロゴロ。実社会では年寄り扱い、もういい年だと思っていたこちらはこの世界ではまだひよこみたいなもの。ここではないいつでも若い気分であらうと思ったものだ。

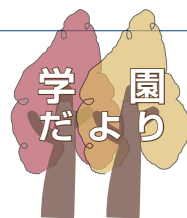
◎ そんな私もかつての大先輩方と同じような名簿上位に載る年代になって思ったのは年取るほどに甘い青春を思い出す。特に中学・高校時代が懐かしくなるものだ。青春は若い奴らにはもったいない！とは小説家バーナード・ショーの箴言だが、年を取ったいまだからこそっと上手く青春を謳歌出来るという気持ちも高まるということかもしれない。大先輩方の元気の源もそこにあつたのかと思う。

◎ 考えてみれば海原会というのは不思議な組織であり世界だ。学校や会社と違って決まった期間・年齢によって人が入れ替わるようなことはない。先輩は先輩のまま、後輩は後輩のままの関係がずっと続いている。利害関係や上下関係のない人間関係だけで成り立っている。そんな付き合いのできる社会組織は他にない。

◎ 後にならないと分らないのは人間の性というもの。近年でいえばあのコロナ下、不要不急のものは必要ないもの、価値のないものとして多くの大事なものを失った。コミュニケーションの場が失われ人との接触の機会、会話が無くなった。逆にデジタル化とともにコスパをもとめる効率主義が進み、短絡的思考が強まって「今だけ金だけ自分だけ」の風潮が世界的に蔓延した。

◎ そんな世界の対局にあるのが同窓会である。不要不急の最たるものである同窓会が存在し続けていることは奇跡のようなことかもしれない。海原会100年の歴史のなかで存続の危機といえるような停滞期もあったと聞く。価値のないものとみられる小さく弱い壊れ物だからこそ強く深いのだと著述家松岡正剛が「フラジャイル」で思索しているようにいまこそ同窓会の存在そのものの価値、大きさに目を向けて維持していくことが必要なのだと思う。貴重なサンクチュアリーとして。今後のさらなる発展を祈っています。

◎ 今号をもつて会報の編集長を下ろしてもらうことになりました。ながらくこれまで支えてくれた編集諸子、また会報を愛読して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。なお次の編集長には昭和53年卒の深田誠さんに引き受けて頂きました。引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします(小西洋也)



事務長補佐入試広報部

塩田 顕一郎

(平成3年卒)

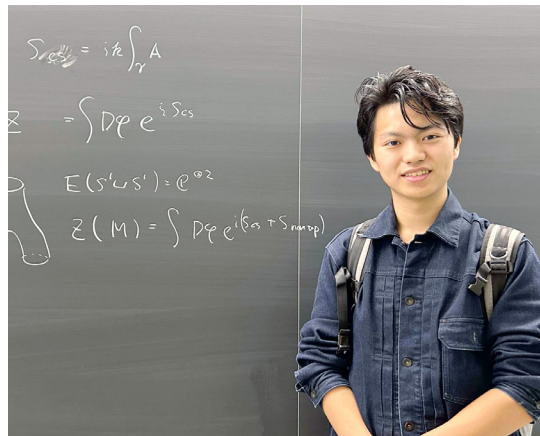
■校長室ピアノ

「一人でピアノを奏でたくなった時、友だちに演奏を聴いてもらいたい時、そんな時に生徒の皆さんに弾いてもらえたら。」そんな大迫校長の思いから5月23日に校長室にランドピアノが入りました。

その名も「校長室ピアノ」。早速、腕に覚えがある生徒が次々と校長室にやって来て、ショパンやベートーヴェンの曲を披露してくれました。一緒にやって来た友人も「すごい」「そんなに上手にピアノが弾けるんだ！」と驚きを隠せず、はじめて見る友達の見事な演奏に感動していました。

9月にはピアニストの岡田奏さんをお招きし、校長室でミニコンサートを開催。30名ほどの生徒たちがプロの演奏に聴き惚れていました。今後、校長室ミニコンサートは毎学期開催する予定です。

校長室からピアノの音色が響き渡る学校。素敵です。



カリフォルニア工科大学3年生池田隼さん

■アメリカ学校説明会

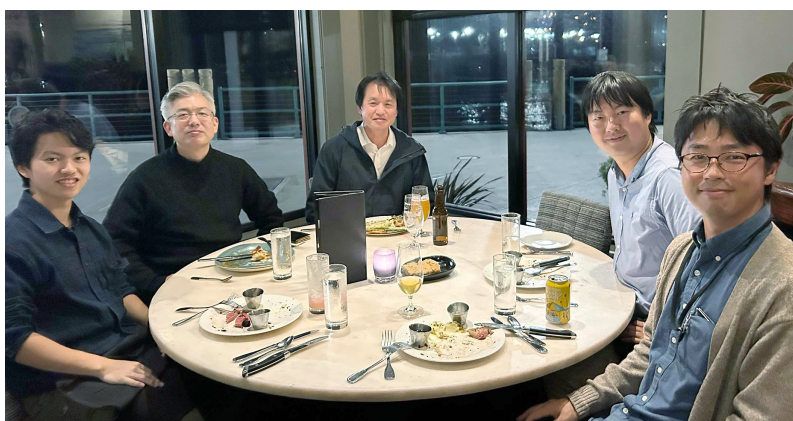
今秋、5年ぶりに北米へ渡り、ニューヨーク・ロサンゼルス・サンノゼで11の学習塾を訪問し、各所で学校説明会を開催いたしました。コロナ禍を経て、オンラインでの授業が日常になったこともあり、対面での参加者以上にオンラインで参加される方が多かったことは少々驚きでしたが、やはり実際に現地に赴かないと得られない情報も多く、コロナ禍以降のアメリカでの中学受験の情勢変化がよくわかりました。

学校説明会の会場には、ニューヨーク大学 (NYU)、カリフォルニア工科大学 (Caltech)、UC Berkeley、スタンフォード大学といった名門海外大学を視察。Caltechでは、数理物理学を専攻している3年生の池田隼さん (R4卒) を訪ね、キャンパスを案内してもらいました。学部生が1000名に満たない少人数教育を行う Caltech の充実した教育環境は羨ましかったです。

一方、ニューヨークでは羽山遼さん (H13卒)、沼田徒夢さん (H17卒)、山崎允宏さん (H17卒) と、ロサンゼルスでは大畑統之さん (H17卒)、西野孝哉さん (H17卒)、前述の池田さんと「海原会」を開催することができました。医師、会計士、弁護士など、世界を舞台に活躍する卒業生の姿は実に頼もしく、海外での海城ネットワークは今後ますます広がります。



ニューヨーク海原会



ロサンゼルス海原会

永年会費納入者

(敬称略)

昭和55	中嶋 正人	昭和47	中川 和俊
(寄付1千円)		(永年10万円)	
令和03	矢野 陽大	平成31	沖永 智紀
平成31	安藤 聡	令和05	江崎 史龍
昭和42	山田 茂	平成16	浅井顕太郎
昭和48	三上 幸一	昭和23	嶋方 重泰
(寄付1万円)		(寄付1万円)	
昭和57	岩本 幸夫	令和06	長谷川修造
昭和58	村松 慶一	平成31	古賀 広将
(永年3万円)		平成25	宮地 宏樹
(寄付3万円)		令和06	金森 大和
昭和19	中路 一	昭和45	石川 雅康
(寄付5千円)		(追加1万円)	
昭和24	嶋村 与興	令和06	北村 要
(寄付1万円)		昭和26	田辺 幸巨
昭和35	秋元 孝二	(寄付1万円)	
(寄付1万円)		令和05	田中 壮汰
昭和41	篠 由紀男	平成31	田島 優人
(寄付3千円)		令和06	藤巻 拓也
令和06	小田 周	平成28	高橋 謙斗
昭和19	小倉 康弘	令和06	渡邊 隼人
(寄付10万円)		平成26	高橋 翔大
令和04	鈴木 悠太	平成18	伊藤 隆
平成31	荒田 魁	平成29	金 輝
昭和35	大石 和生	昭和31	倉持 建基
(寄付1万円)		(永年5万円)	
令和06	津向 圭亮	平成08	手塚 勝貴
昭和51	吉岡 勉	(寄付1万円)	
(寄付5万円)		昭和59	鈴木 圭

令和5年4月から令和6年9月末まで(受領日順)。永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますが、ご了承ください。

高校生「花生け甲子園」の 全国優勝として活躍する フラワーデザイナー

有限会社「タカ花店」 取締役社長

小高 勝さん

（ただか まさる（昭和53年卒）



小高勝さんは、上野広小路で老舗「コダカ花店（創業明治32年）」を承継しながら、フラワーデザイナーとして活躍しています。

また令和2年より正則学園高等学校（千代田区・男子校）で「花生け男子部」（創部7年目）の監督として指導を続け、令和6年8月に岐阜県大垣市で開催された「文化部のインターハイ」といわれる「第48回全国高校文化祭」の「花生けバト部門（花生け甲子園）」で優勝しました。

で、2階では生け花教室も開いています。自分で言うのも何ですが、上野広小路界隈では名の通っている老舗の生花店です。」

高校生「花生け甲子園」のことについて教えてください。

「私の次男が平成18年に正則学園高校へ入学して、現在の教頭小嶋先生が当時率いていたビッグバンド部でドラマーとして3年間活躍しました。卒業してから11年後の令和2年に先生が『高校生花生けバトル』という競技に興味を持ちメンバーを集め、私に指導の依頼がありました。その年に関東大会に初参加して準優勝しました。」

その後、全国選抜大会で3年連続3位となり、今年念願の全国優勝を果たすことができました。

優勝の要因として、全部員に対して精神的なケアをしながら個別の対応や、勝ち負けを意識させて先ずは代表枠6名の中に入れる努力と競争心を植え付けたことが挙げられると思います。バイオリズムで好不調のリズムを大会に照準を合わせて調整したことも成功の要因だったと思います。

大会では制限時間5分以内にステージに用意された花材を選び、即興で花を生けます。勝敗の判定は審査員と勝ち札を持った観客全員により行なわれます。」

どんな6年間の中学高校時代でしたか。

「共学だった小学校から男子校の中学



【令和6年10月1日の東京新聞(朝刊)より】

スパルタな時代だったと思います。感情に左右されない愛情のこもった厳しい指導でしたが、それはそれで当時まだ未熟だった自分を強く後押ししてもらえたと思っています。

人間形成の大切な多感な時期に先生方の熱い指導を頂き、今の自分があるのだと感謝しています。」

現役の後輩たちへメッセージをお願いします。

「私は人と人との心の輪を大切にしています。今でも中学の同期たちとはLINEで繋がっていて同期会もやっています。人に優しく思いやりを持って、自分に厳しい6年間の学校生活を送ってほしいですね。」

（深田 誠 記）

今の仕事を始めるきっかけは。

音楽鑑賞・美術鑑賞・トライアスロン・スクーバダイビング・水上スキー・ドラッグ・スポーツ観戦といった多彩な趣味をお持ちです。

「私が長男でしたので四代目として家業を継ぎました。妻や息子と共に家族で経営に奮闘しています。1階が店舗

正直あまり勉強には熱心ではありませんでしたが、中学時代は野球部、高校時代はアメリカンフットボール部に熱心に部活に取り組みました。中でも特に思い出に残っていることは、中学の体育祭でリレーアンカーとしてぶつちぎりでゴールして優勝した時にクラスメートから胴上げされたことです。あの時の嬉しさは今でも脳裏に焼き付いています。

思い出に残っている先生は、当時スパルタの代表格でもあった田中鉄夫先生と池田健一先生です。今では通用しない



30余年におよぶ 映画評論活動の 集成を出版

映画評論家・番組等構成・演出家

荻野洋一さん

おきの よういち (昭和59年卒)



荻野洋一さんは、映画評論家、そして番組等映像作品の構成や演出の仕事をしている。

荻野さんが映画評論家として30余年活動し、これまで数多くの媒体に寄稿してきた記事をまとめて2024年7月に著書を出版した。それが後述する『ばらばらとなりし花びらの欠片に捧ぐ』(発行・(株)リトルモア)だ。

著書を発行した(株)リトルモアさんの編集部の一角をお借りし、インタビューをさせて頂いた。

入学〜映画への興味

荻野さんは中学3年生のとき、海城の学校説明会に行った。その帰り道、新大久保から小滝橋通りまで歩いていると、輸入盤レコード店、ブートレグ(海賊版)レコード店

がいくつもあった。そのロケーションが素晴らしいと感じたことが、高校から海城に入

学するきっかけとなった。

高1の担任はフクセンこと福田先生。高2からは当時の文Aコースを選択し、高2、高3の担任は福

島羊一先生だった。

高校時代、特定の部活には入っていなかったが、周りのクラスメートとともに、音楽、映画や、演劇、現代思想に夢になった。放課後に学校に留まるよりも、

新宿、渋谷、お茶の水、下北沢に遊びに行つて「何かを味わう」ことに面白みを感じていた。クラスメートとともに、学級日誌に浅田彰の著書「構造と力」の引用を書き込んだりした。

入学当初は音楽への興味と映画への興味が拮抗していたが、音楽への興味がだんだんと薄れて行き、映画の方に興味に移っていった。フランスの映画監督ヌーヴェルヴァーグの旗手であるゴダールと、日本の映画監督大島渚の存在が、映画へのめり込むきっかけとなった。

大学入学〜映画を職業に

荻野さんは、早稲田大学政治経済学部に入學。サークルは「早大シネマ研究会」へ入った。いわゆる就職活動せずに「フリー宣言」をし、映画をつくることと、映画を論じることと同時にやりたいと考えていた。そんななか、河原宏教授のゼミで荻野さんが書いたゼミ論文が、映画評論家になるきっかけになる。

当時の韓国は全斗煥大統領政権下の軍事独裁。韓国の反体制派映画作家の李長鎬(イ・ジャンホ)および韓国「反共映画法」の背景についてゼミ論文を書いた。これが、映画評論家の松田政男氏の目に留まり、彼の紹介でアングラ劇団「発見の会」の手に渡り、同会が配給した「李長鎬特集」上映のパンフレットに掲載されることになった。ゼミ論文が幸先よく商業出版物になったのだ。

一方、映画製作の方は苦勞が多かったようだ。早く監督になるため数多くの企画書を作成した。やっと29歳になって自らの監督作品を作るに至った。ところが、あるトラブルでプロダクション側がだめになってしまった。



その時から、荻野さんは活動拠点をテレビに移す。数年前、荻野さんがディレクターだったCS番組で、海原会会長の徳光和夫さんと一緒に仕事をしたこともあったそうだ。

テレビ業界は、きちんとギャラが支払われ、しかも毎週放送がされる。作れば作るほど収入となっていく。一方、映画製作は、企画書が滅多に通らない上に、企画が採用されなければ無報酬だ。「映画は報われないな」という思いがあった。しかし、映画への未練は断ち難く、コソコソと映画評論をやっているのだという。

著書について

著書の出版社である(株)リトルモアの社主から「本になりそうな文章はないのか?」と最初に勧められた。

結局、「集成にしてみたらどうか」ということとなり、30年余りの評論活動で様々な媒体に寄稿した記事をまとめることとなった。2024年7月『ばらばらとなりし花びらの欠片に捧ぐ』(発行所・(株)リトルモア)〈帯文・「稀代の名文家」による映画評論集〉が発行された。

著書の題名は、同書第7章の章題から採用している。

序文には、自らが評論の面白さに目覚

めたきっかけの一つが、海城時代の古文の授業教材だったことや、高校時代のことなども書かれている。また扱う映画のジャンルも多岐に渡っている。

海城生へ

最後に今の海城生へのメッセージをお願いした。

「海城における中高6年間は、非常に重要な変化の季節だ。友から受ける影響や、好きな教師から受ける刺激をもとに、大いにいろいろな人の影響を受けて欲しい」。

「海城に在学する利点は、どこの付属校でもないで、自由に自分の意志で進路を決めることができることだ。6年を猶予期間として考えて、より多くの影響や刺激を受けてほしい。海城生は無限の可能性を持っている」。

「海城に在学する利点の2つ目は、大都会の真ん中に立地していることだ。郊外の緑豊かで良好な環境や、悪い影響がないキャンパスの中で勉強・スポーツに励むのも良いのだけれど。海城の良さはその正反対で、猥雑さも含めて刺激を大いに吸い込みながら人格を形成することができることだ」。

「現代の少子高齢化、経済縮小時代において、突破口となりうる人間形成には、海城のような学校の方が利点が多いのではないかな」。

新大久保という地の利を活かし、高校時代から様々な文化的刺激を受けてきた荻野さんらしい言葉だった。

(横嶋良太 記)



7月下旬の猛暑と多湿の中、羽田空港から全日空便フランクフルト行きに搭乗し日本を後にしました。パリ直行便は、大人気で価格が高いので比較的安いフランクフルト経由にしました。パリオリンピックの人気はすごい。去年12月に購入したのにホテルも普段の価格の2〜3倍でした。それでも行きたかったパリ。海外でのオリンピック観戦は初めての体験でした。

今回のパリ行きを駆り立てた理由は、大学時代の友人の娘さんが出場するからです。トリアスロの高橋侑子さんは、前回の東京オリンピックに続き、2度目のオリンピック出場。素直で明るくて皆から愛される選手です。そんな彼女がセーヌ川を泳ぎ、シャンゼリゼ通りをバイクとランで駆け抜ける姿を心から応援しました。

- 7/28 (パリ)女子バレー 日本対ポーランド
- 7/29 (パリ)柔道
- 7/30 (ライル)男子バスケット 日本対フランス
- 7/31 (パリ)トリアスロ女子(高橋侑子選手)
- 7/1 (パリ)女子バレー 日本対ブラジル

パリオリンピック裏観戦記

昭和53年卒 宮里桂太

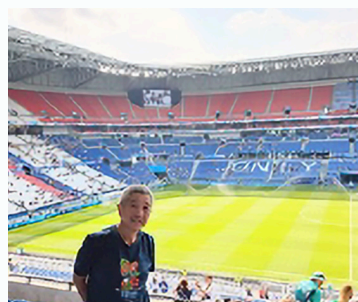


後、高橋侑子選手と

生でおとなしい感じがしました。「俺が、俺が」「私が、私が」と前に出て行く選手がいます。そういう選手がいないと逆境に立ち向かえないように思います。

◆パリには、路上にたくさんさんの鳩がいました。日本と比べると、人を怖がっていませんでした。おそらくこれは、人が餌をやっているからだと思えます。日本は、餌やり禁止ですよ。

◆今回はパリだけではなく、パリからTGV(新幹線)で北に1時間のベルギー国境のライルでバスケットボール。パリから南東に2時間のリヨンでサッカーを観戦しました。パリをちょうど離れると大草原の牧草地帯。それが、ずっと続いています。パリ在住の方に聞いたところ、フランスの産業は農業中心で、



リヨンのグループパムスタジアム

牛を飼うか、ワインを作るかのようです。

◆フランスが売りにしているものはブランドだと感じました。長い歴史の中で培われたフランス各地の文化、教養、建物から醸し出される何とも言えない芸術力がブランドを生み出していると感じました。このような芸術力を守り育ててきたということですね。すごいことです！

◆為替ですが、今回は1€170円で計算しました。もしこれが、140円だとしても物価は高いと思いました。これはパリだけではなく、他の都市でもかなり高いと感じました。一体、みんなどうやって生活しているのでしょうか？

これまで3回のフランス行きは、いずれも出張であつた新婚旅行もありましたが、パリ市内だけでした。今回、パリを含め3都市しか行つてませんが、TGVの車窓も含めフランスはとても魅力的でした。もっと知りたいという気持ちになりました。日本人選手たちの活躍は私にとっても励みになりました。来る12月のホルムラソンに4年連続で参加しますが、自己ベストタイムに挑戦できます。また、4年後のロサンゼルスオリンピックも是非観戦に行きたいと思っています。



東京六大学野球部の渡辺向輝さん(R3卒)が令和6年10月13日の法政大学戦でリーグ戦初完投初勝利を飾りました。試合は序盤から東大が先手を取り、3対2のサヨナラ勝ち。スタンドは歓喜の渦に包まれ拍手が鳴りやまず、応援していた父親で元プロ野球選手、社会人野球の日本製鉄かずさマジック監督の

自分には野球なのだと感じたのが東大野球部に入るキッカケでした。入学後、すぐにAチームに入れてもらいました。が、オーバースローでいいのか、アンダーロー

リーグ戦での初完投初勝利、おめでとうございます。大学入学から初勝利までの決して平坦ではなかった道のりについて語ってもらえますか。

「小3から野球を始め、中学校高校と野球部で続けました。高3の夏に城北高に負けた後、父の事がメディアで話題になり上のレベルでやってみようと思ひ東大を目指して受験勉強をする中で、やっぱり

2ヶ月離脱しました。その期間に自分を振り返り、野球への取り組みを考え直しました。もう一度しっかりやっていこうという気持ちになり、その時にタイミング良く合宿所に入ることができました。野球をする環境にも恵まれ、ここからアンダースローで頑張ろうと気持ちが固まりました。

2年生になり春の早稲田戦で中継ぎとしてリーグ戦デビューしました。その後の新人戦で明治を7回1失点に抑え、試合は4対4の引き分けでしたがこれは今の自分の自信に繋がっています。しかしながら、リーグ戦とのレベルの差を感じます。法大戦で初勝利した時は、涙

渡辺向輝さん、東京六大学野球で初勝利！

じ、このままでは中継ぎでしか活躍できないと考え、それまでの力だけで押さえようとするピッチングスタイルをやめて、打者のタイミングを狂わせた

が出そうになるくらい嬉しかったです！

が好きなので。野球も様々な問題に直面してそれらを解決していくというプロセスがよく似ていて、そういう所が面白いと思います。」

現役生達に何かメッセージをお願いします。

「まずは野球部後輩の皆さんへ、野球に対する理解を深めておいた方が良いでしょう。東大の野球部も同じだと思ひますが、表面だけを真似するというか、目の前に示された答えを真似してしまふ。頭のよい子特有の考え方から抜け出せない所がある。自分で答えを見つけたい、そのためには野球への理解が必要不可欠だとこの大学3年間ですごく感じました。例えば、投手が球速だけを追い求めるときに、決して140キロないと押さえられない訳ではないこと気づく。なぜ、なぜ」とその裏にある理由や根拠を掘り下げていく。こういうことを高校生のうちからどんどんやっておいたほうが良いと思います。こういう考え方は、野球部以外の現役生皆さんにも言えることです。そして勉強と遊びを両立できる『要領の良さ』と容量(体力)』

渡辺俊介さんも「私の大学時代よりも良いピッチングをしていますね。」と賞賛していました。そこで野球部OB会を代表して渡辺さんにお祝いのメッセージを届けてインタビューをしました。

でいくのかはつきりしない中途半端な状態で練習試合でも結果が出ず1年生の時の春秋リーグ戦共にベンチメンバーに入れませんでした。秋の新人戦では先発を任せましたが、ピッチャーライナーを顔面に受けて頸を骨折して約3年生になるまでその取り組みを続けながら、ミートポイントをずらしたりして勝負してこ

「プロを目指したいです。今の時点では厳しいと思いますが、順調に成長していけば可能性はあると思っています。これからは、体作りに完全に切り替えていきます。もしかなわなければ、コンサル企業に就職したいです。物事を解決するの

を今のうちから磨いておくよと思います。」
渡辺さん、ありがとうございました。益々の活躍を楽しみにしています。頑張ってください。
(昭和53年卒 深田 誠/野球部OB会長)

■受験勉強のモチベーションとしては、やはり親子で海城ということだったのでしょうか？

市川貴之さん(以下…子)…実は私、合格発表の日までお父さんが海城出身だと知らなくて、合格発表になぜか父が付いて来てくれて、合格が分かったら、すぐに生物職員室に連れていかれて…。

市川治男さん(以下…父)…長島先生に挨拶に行ったよね。

子…生物職員室に入って挨拶したら、いきなり、「立つてろ」と言われて…。

直立不動で待っていて身に着けた忍耐力は、今の仕事(陸上自衛隊)でも役に立つ

ています。

(編集部注) 長島先生は昭和40年代、平成10年代に教鞭を執られていた生物の先生。超人的な伝説の数々は今の海城生にも伝わっているという。

■それは、恐怖…いえ印象深い経験でしたね

父…1時間半くらいだったか、大分待たせてしまったね。長島先生は、生徒時代に新任の先生だったから思い出が多くて。

子…私が中学3年の



親子で海城 ② 海城に通って得たもの

いちかわ はるお
市川 治男 さん
いちかわ たかゆき
市川 貴之 さん
(昭和43年卒) 父
(平成16年卒) 子

海城ラグビー部創設に至ったんだ。
(編集部注) ラグビー部は昭和40年に同好会として創部。後に部に昇格。そこで育てられたタフな人材は世界中で活躍している。創部50周年を機に惜しまれつつ活動を終えた。

■お父様はラグビー部の黎明期を経験されたのですか

父…そうですね。海城ラグビー部で得たスポーツ能力を生かそうと思っただけ、ラグビー部が軟弱だったからアメリカンフットボールに転向したんだ。
(編集部注) 海城OBにはアメフトに関わった人が多い。海城時代にアメフト部だった人もいるが、柔道部やラグビー部等から大学で転向した人もいます。市川治男さんはその中でも特に活躍された方の1人で、米国大学選抜との試合で相手スター選手を止めた武勇伝が書籍で紹介されている。

父…そう、同じクラスでみんなやんちゃだったけど、斉田とも仲良かったよ。
子…斉田先生って生徒から見ると恐怖の対象、赤鬼みたいな人でしたが、お父さんは仲良かったんですね。
父…そうですね。
子…斉田先生には、私がお父さんの息子と知ってたのか、かなり厳しい指導を特別に受けていました。文化祭実行委員で私が呼ばれるとずっと指導されて、文化祭実行委員のメンバーの間では毎回2時間帰ってこない

■本日ありがとうございました。
とびきりディープなお二人のお話に、口を挟む余地もありませんでしたが、懐かしい先生方のお話を聞けた素晴らしい時間でした。
父…こちらこそ。
■お二人ともご縁の多い海城時代でしたね
子…今回は親子で海城第2弾ということで「海城に通って得たもの」というテーマで話しましたが、お父さんは「スポーツ能力」と「長島先生を始めとした人脈」でしょうか。
父…貴之は「忍耐力」「親子ならではの人脈」かな
子…そうですね。本日はありがとうございました。
市川 治男 昭和43年卒 立教大学
(有)ヒューマンコミュニケーションズ代表取締役
市川 貴之 平成16年卒 防衛大学校 陸上自衛官

昭和31年卒 A組クラス会 歳を言い訳にせず

先年のコロナ騒ぎで延期を重ねてきた昭和三十一年卒のクラス会が十月三十一日新宿のレストランで開催された。

令和七年元旦には米寿を迎える強者たちが参集した。

然し、前回の参加者は十六人であったのが今回は十一人となった。老齢による身体故障、また死亡による減少は致し方なし。

先ず計報に黙待をしてから、話題になるのが身近な病気の事、車椅子、杖に頼る参加者もあり、癌を克服したもの、白内障手術に待機しているもの、中には現役時代の職を生かして活動しているもの、それぞれに現状の身体に即して、今を楽しく生きるに徹している様子が窺い知れる。また、戦場ガザの惨状を目の当たりにして、イスラエルへの憤り、パレスチナ受難の子供たちに涙するものもある。

歳を言い訳にして、内に籠もるを良しとせず、社会に触れて、世界を凝視する姿勢を忘れないでいたいと皆思った。

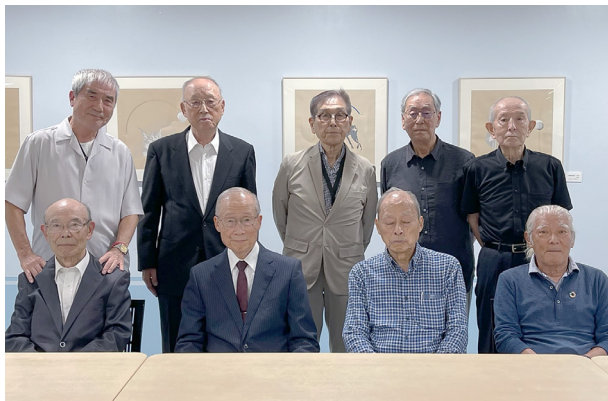
意気が盛んなのは、次のクラス会の日程と場所をこのレストランと決めて、予約をとって散会とした次第である。
(川村亮介)



昭和33年卒 同期会 三三三 次回も母校で

十月十九日に久しぶりに海城学園カフェテリアにて同期会を開催致しました。我々の同期は昭和三十三年卒業時には約四百名おりました。今回は住所判明者の六八名に案内通知を出しましたが、出席者十名(内二名欠席)欠席通知者は四十名、返信なしは十八名でした。出席が少なく寂しい気もしましたが、乾杯の後暫く歓談をしておりましたが、各自から近況報告や学園時代の思い出など話してもらいました。今だから言える悪さをした事などの披露する者もあり、懐かしいさも入りました。同期の古賀理事長から現在の学園の状況と将来の展望について説明がありました。理科教室の新設等我々が通っていた頃とは大違いで校舎も綺麗で明るく、設備も充実して目を見張るばかりです。来年も同じ会場で開催することになり、各自出席者をもう少し増やそう、欠席者に呼び掛けることにしました。高齢で足元不如意なので来年の再会を約束し暗くなる前に早めに閉会となりました。

出席者 前列右より佐藤清、加藤眞一、



古賀喜博、谷口賢、後列右より池内宏、伊藤英夫、利根川節二、加藤清治、萩原正美
(加藤清治)

昭和36年卒 36会 今年も活発に活動

6月8日(土)、午後1時半から1号館講堂の前の1年3組の部屋を借りて総勢28名で36会の総会を開催した。総会は新会長の「滝本喬」君の話で始まった。同期の物故者82名の黙祷が行われ、事務長の「中島忠家」君の会計報告、欠席した伊藤邦正の代わり。続いて役員及びクラス幹事の紹介、昨年の活動報告(傘寿旅行会・参加者10名、母校野球部の応援、海城祭海原会サロン(太田國廣)君の絵画紹介、12月のハワイの立花君の有志7名に依る歓迎忘年会(四谷ぼらん、今年正月の「明治神宮参拝」等の報告があった。今年の活動予定として齊藤邦君の筑波大、春日部の祭参加の話と私、杉山の横須賀海軍基地の見学等々の話が出て、ハワイから参加した立花君の田舎のハワイの状況の話があり、最後に重武副会長の締め、2時50分に終了して3時から始まる海原会総会に参加した。
(杉山紘千佳)



昭和39年卒同期会 39会 海外からも参加

卒業60年で記念品が頂けるという角田の呼びかけで久し振りの母校の同窓会海原会に参加しました。会場は賑やか雰囲気の中、徳光同窓会長の軽妙な挨拶と大迫校長の「目指せ!東大ではなく人に優しい人になる教育(海城知)」の詩の朗読に感激。現役学生吹奏楽団の素晴らしい演奏に少ししたとどしく校歌を合唱。コロナ明けで久しぶりの懇親会に参加した39年卒の同期の面々は



優秀な今日の海城を作った母校の先生だった関、遠くロスアンゼルスから歩行器を使用しながら馳せ参じた玉栄、ダンディさを失わない小暮、目指せ!エージシユートとゴルフ三昧の鶴殿、人工芝の素晴らしいグラウンドを見て隔世の感を感じた野球部OBの丹羽、杖をつきながらもゴルフ再開を目指している角田、足の悪い玉栄を優しくみんな誘導してくれた吹奏楽団の生徒達を見て感激の涙を心の中で流した照井。昭和19年卒98歳の小倉さんと徳光同窓会長と一緒にズームインの掛け声での集合写真を撮って頂き締めくくりました。
(平井耕之助)

昭和41年卒 同期会 喜寿すぎて次は卒後60年

真偽の程はわからぬが喜寿はあまり祝うものではないといううわさもあつて、これを機会にという声もあつたが特別の招集は見送っている。そうこうしているうちに仲間の病气や計報の連絡ばかりが増えてきた。あまりのんびりしてはいられない。とりあえずは再来年2026年が我々卒業から60年になる。総会で記念品がいただけるそうだ。元気で動ける同輩はぜひ総会に出席して顔を合わそう。それとは別に元気で馬鹿話が出るうちは皆で飲もうという連中がいまも隔月集まっている。場所は今年亡くなった千葉君の店だが奥さんが提供してくれている。常連は5、6人。多いときで10人ぐらいの同期が集まる。覗く見たい人は、ko-west@outlook.comに連絡ください。
(小西洋也)



昭和44年卒 6組クラス会 再会を約束

昭和44年卒6組クラス会が10月5日(土)に新宿の「南国酒家京王新宿店」で開催されました。コロナ禍で中止をしていましたが、

2019年以来5年ぶりの開催となりました。当日は首都圏から9名のクラスメイトが集まり、初めての参加者もあり懐かしい顔を合わせながら、話は多岐に渡り大いに盛り上がりしました。老舗中国料理店の料理を味わいながら、楽しいひとときを過ごせました。

残念でしたのは、この5年間で旅立った仲間もおりましたことです。改めて元気に次回も会えることを約束して散会致しました。

(代表幹事 酒井隆光・山口清)

昭和47年卒 大澤組クラス会 大澤組クラス会開催

コロナの影響で5年ぶりの開催となったクラス会。その間の昨年、敬愛する大澤英夫先生が亡くなったことが痛恨の極みです。6年前に、大澤先生の地元・綱島でクラス会を開いた際には、元気にご参加くださったのですが、5年前のクラス会の際には施設に入っていられて、お目にかかることが叶いませんでした。また、この5年の間に数人の級友も旅立っており、年齢を感じずにはられません。とは言え、集まれば一気にな代に戻って話ができます。しかも今回は卒業以来53年ぶりという級友が3名も参加してくれ、大いに盛り上がりしました。3時間の歓談の後、来年の再会を誓って、東京駅頭で散会しました。

(志田忠弘)

昭和50年中学卒 同期会 クラスの垣根を越えて

2024年4月21日、四谷の中華料理・嘉賓にて3クラス合同の同期会を行ない、料理に舌鼓を打ち盆を交わしながら、近況報告や思い出話などで旧交を温めました。当時は3クラス編成で、1組担任は故田中鉄夫先生、2組は故池田健一先生、3組担任は関尚明先生。ご存命の関先生は、この日体調が悪く残念ながら欠席されました。中3の時には、教育評論家として活躍されている尾木直樹先生に国語を担当していただきました。今年で満65歳を迎える代ですが、皆さん元気に活

躍しています。LINEで繋がっていますので、同期の方はお声掛けください。

(昭和53年卒 深田 誠)



昭和50年卒 目黒学級同窓会 卒業後50年ぶりの再会

2024年6月22日卒業後約50年経った旧友が集いました。皆が70歳目前ですが約三分の一の14名がお互いの近況を語り合いました。楽しい時間はあっという間に過ぎ再会を誓いました。

(平田高司)



昭和56年卒6年9組木村クラス同窓会 卒アルを肴に

2024年10月6日、高田馬場のレストランに集い、昨年に引き続いての開催となりました。担任の木村直毅先生もお元気でご参加いただき、小田嶋君、小島(光)君、小林(厚)君、十時君、中村君、永原君、福本君、遠藤で再会を祝しました。いつも用意周到な永原君が懐かしい卒アルのコピーなどを持ってきてくれたので、それを見ながら、当時の怖い先生方のお話や、修学旅行など昔話に花が咲きました。また、在学当時には知らなかった秘密(?)も先生から伺いました。近況といえば、仕事の第線で頑張っている人、プライベートが充実している人、第一の人生を歩んでいる人などさまざまでした。それでもやっぱり昔と変わらず、みんな人が良いよね、ということに納得していました(笑)。今回、初参加の人もあり、この二年で久しぶりに連絡がついた人もいましたし、予定が合えば参加するという方もいました。最後に、木村先生から皆へのエールをいただき、また来年にもぎやかに集まりましょうと約束しました。(遠藤幸彦)



昭和57年卒7組 同窓会 今回は全員参加を!

2024年7月7日(日)、まだたった4名

ですが、昭和57年卒7組の同窓会を横浜中華街で開催しました。7組の皆さん、ぜひご連絡ください!

(楠 和夫)

昭和60年卒 鈴木元明クラス 昭和60年卒鈴木元明クラス集え!!

昭和60年卒業の7組鈴木元明先生クラスです。業界の健康診断会場でたまたま遭遇した2名の呼びかけで宴会をしました。卒業以来の再会もあって盛り上がり、次回はもっとメンバー招集して同期会を開催する方向で動いています。が、SNS上の情報で検索できないメンバーが多く、あるのは当時の名簿のみ。すでに自宅の電話番号は使われていない状況も多く、連絡がつきません。もしこのページを見ている昭和60年卒鈴木元明組のメンバーがいれば、海原会 連絡いただければ個別に連絡させていただきます。

(北木 新)

昭和62年卒同期コンペ ゴルフと地魚を満喫

「泊まりで集まりたいね」と誰からともなくアイデアが出て、今回の六人会コンペはゴルフ合宿となりました。前日に千葉の御宿で練習ラウンドをして、夜は勝浦に泊り、地元の寿司屋で乾杯!翌日は勝浦東急カントリで本番。



当日参加組も合わせ13名の参加でした。なお、優勝は4組の志摩渉選手。

このコンペも19回を数えることとなり、次回には新しい優勝カップを作ることになりました。六一会の揃いのタグも作ることにになり、なにやらどんどん本格的になってきております。

(国井信男)

平成元年卒 長島組クラス会 それぞれの人生を肴に

残暑も和らいだ9月28日、須長君の上京を聞いた飯村君の呼びかけで令和元年卒長嶋クラス(6年12組)のクラス会が開催されました。卒業して35年、連絡が付く方も少なくなっていますが、それでも12名(青柳、飯村、江藤(中村)、小倉、斉藤(政)、篠原、須長、津島、松田、平尾、三森、山本(こつ))が参加。外見には35年の歴史が刻まれているものの、中身は大きな変化もなく、高校時代の思い出話や近況で大いに盛り上がりしました。すでに孫がいる方がいる一方、この7月に子供が産まれた!方など、それぞれの人生を肴に杯を重ねていたら、4時間があっという間に経過。次は小倉君が住んでいる仙台で12月の再会を約して散会となりました。長嶋クラスの皆さん、この会を広げたいので、ぜひ私まで連絡をお願いします。

koten_2004@yahoo.co.jp (山本 (こつ))



平成2年卒 同窓会 30余年ぶりの再会

10月26日、平成二年（1990年）卒の約30名が集まり、学年として初めての同窓会を開きました。卒業後35年目です。発起人の理科コース茂木先生クラス出身の樺裕介君がSNSなどで連絡を取っていた人を中心に、参加者の輪を上げました。ゲストとして茂木先生と八塚先生にお越しいただき、当時の呼び方で呼んでいたきつ在校時と変わらぬ師弟関係を懐かしみました。

卒業生同士も卒業以来の再会が多く、最初こそ互いに名刺を見せ名乗り合うものの、すぐにかつての同級生に戻っていました。自己紹介が始まると、皆まず淡々と卒業後の進路を語りましたが、そのうち男子校ならではの思い出話や武勇伝が続々と。詳細は書きません。しかしそれぞれ有名企業勤務、士業で独



立、研究者、アーティストなど立派にキャリアを歩んでいるのです。あと数年で役職定年という話に思わず歳を感じる一幕も。後に校歌を二番まで歌い一次会は終了しました。

（岡本浩太郎）

平成16年卒 同期会 学年同窓会を目標に

卒業から20年が経過したこの機会に、久しぶりに同期生と再会し、懐かしい思い出を共有したいと思い、今年の4月に同窓会を企画しました。約50人が集まり、久しぶりに懐かしいメンバーとの再会で、大いに盛り上がりしました。今回の会は「プレ同窓会」ということで、今後正式に学年同窓会を開催する予定です。今回、連絡が届かなかった方にも情報が行き渡るようにしたいと考えておりますのでぜひご連絡いただければ幸いです。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

（安本圭佑）



半澤隆憲先生赴任60周年記念謝恩会 いつまでもお元気で！

過日。先生から「大病を4つやり退屈な謹慎生活。生き甲斐がない。皆に会いたいのので私の謝恩会をやって頂けないか…」と電話を頂き、承諾から会報に告知するもご家族から中止のお話をされ、何度も交渉しインタヴュー映像での参加なら…と開催にこぎつけました。

勤続40年。7回のクラス担任、中高サッカー部顧問の教え子ら約20名が参加。先ず参加者は「個人写真撮影」から着席し「インタヴュー映像鑑賞」。

この映像は今後勤続された教諭の記録として保存公開できればと先生、関係者皆様方にインタヴュー。友人（TVスポーツ番組制作）に映像制作頂きました。今後想像される諸事情による恩師不在、海外、遠方在住の参加希望者での謝恩会。集まって飲食できない、階段教室で近況画像を鑑賞するだけ

…ではと今後の指針になればとZOOMを利用し青梅の先生と本校、そして海外からの参加者で交流しました。

閉会締め校歌斉唱は、MCの藤井（昭和51年卒、元バス部）ウシヤコダVo.S&A映像BGM）がウクレレ自弾伴奏でリードをとり全員で合唱、散会しました。

後日、先生から何度も「生き返った！あり



がとう。」と連絡頂戴。拝実行委員長…富田勝彦（昭和51年卒、元サッカー部美術家）半澤先生は連日、退屈しています。R青梅線「河辺駅前、図書館まで会いに行こう！希望者には半澤先生のメアドをお知らせします。海原会へお問い合わせください。」

* 学校広報…塩田顕 郎（平03年卒）、齋藤亮輔（平11年卒）両氏のご協力、感謝。

（昭和51年卒 富田勝彦）

オープニング

<https://youtu.be/hJ16wlyBc2si>

<https://youtu.be/Fs025jWXT0jUu>

インタビュー

<https://youtu.be/8SnL7G9TlUw>

<https://youtu.be/Nj5wKSF7XE15c2d>

記念謝恩会

<https://youtu.be/6yJfE7E2aI2si>

<https://youtu.be/Mi7Nn2ZkXyLpw>

おれの言葉

<https://youtu.be/shortsUn07nqydaAa?si=jD5imVnQF3j3pc>

前田利一さん 一卒業生のボヤキ

・現在91歳過ぎてきましたが当時の記憶を少し書いてみます。入学は戦争中。先生は軍人が多くいました。終戦後上級生に霞ヶ浦予科練から帰ってきたひとがいて怖かったです。あるとき軍のジープが校庭に入ってきて校舎の裏の倉庫に保管されていた竹刀や銃剣、軍事教練に使った品を全部持っていきまし

・当時のクラス分けは東組・南組・西組・北組で、頭の良い生徒規律の良い生徒は東組でした。中学2か3年の時にABC Dになりました。帽子の校章も錨に帆のものに変わりました。

・学園生活ではお弁当のない生徒は4時間目が終わると帰ったり、昼食の時間が終わるまで校庭で待っていたりしたものです。講堂裏に戸山が原射爆場があり放課後、薬

英をひろいに行つて新宿の闇市に売りに行く者もいました。

・中学が4年制の新制中学となり私は3年卒業で日本郵船に一度就職内定していましたが中央大学夜間高校編入試験を受けました。自分のクラスでは10人ほど早稲田や日大などの大学の予備校にいく生徒がいました。その後私は新制4年生に編入しました。その時の日高先生が運動会や社会見学（上野の記念館）などの連絡を頂き同行したものです。その後も海城高校卒業生扱いしていただき皆とお付き合いしておりました。

・その時の同期生とは毎年3、4回旅行に行きました。次第に減り今では知る同期生も居らず同期会も無くなり出かけることも出来ません。最近では佐藤衛・阿部・水野君の死亡通知がありました。多分卒業は昭和26年と思います



昭和25年の図書館風景

生のぼやきです。年金暮らしのため1万円ですが送ります何かにご利用ください。

士業・医業・メディア・海志 新規入会につきまして

先日、海原会への海志会への入会希望があり、海志会へ取り次ぎました。

そして、海志会から、希望者が無事入会されたとの報告をいただきました。

海城OBの業種別海原会は4つあります。

○海原士業会…弁護士、公認会計士、社会保険労務士等「士」のつく職業の方。

○海原メディア会…マスコミ、芸能関係、著述業等の方。

○海原医業会…医師、歯科医師、病院経営者等の方。

○海志会…政治家、秘書、公務員等の方。

入会ご希望の方は当HPの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」までご連絡ください。各会取り次ぎをいたします。(総務委員会)

スタートアップ海原会

第二スタートアップ海原会を開催しました

海城高校出身のスタートアップ関係者を交えて第一スタートアップ海原会を高田馬場にて無事に開催することができました。元々、仕事で知り合った杉村康晴さんと同窓であることが判明してから企画したイベントです



が、当日は20名をゆうに超えるメンバーが集まり、大盛況の中で会を終えることができました。参加してくださったメンバーのうち、判明しているだけでも3名のIPO達成者がいて、海城高校の裾野の広さを改めて実感しました。これからIPOにチャレンジする人、それを支える専門家やVC、それとは無縁で独資を謳歌する人など多彩な人材が集まり本当に素晴らしい会でした。これを機に団結を強めていけたらと思います。ありがとうございます！ (平成7年卒 中尾俊輔)

海原剣友会(剣道部OB会) OB会同稽古会総会及び懇親会

海原剣友会OB稽古会が、去る6月29日(土) 剣道場にて開催された。当日は試験前のため剣道部員の学生達の参加はなかったが、OB 11名、見学者2名の総勢13名の参加があった。久しぶりに稽古で汗を流し、世代を超えた剣道での交流がなされた。当日は、試験前の大変にお忙しい中、馬場先生にも参加頂き、稽古を大変に感謝



申上げる次第である。稽古会終了後、場所を高田馬場に移し、海原剣友会総会を開催し、平成卒年代から事務局局長を選任し、また各卒業年代別の幹事を選出し、海原剣友会の活性化を図る人事が取り決めされた。その後、懇親会、参加者21名が高校時代の思い出等々の話に盛り上がり午後8時30分過ぎに散会した。なお、試験前のお忙しい中、出席頂いた馬場先生、田口先生には、重ねてお礼申し上げます。海原剣友会の稽古会・総会及び懇親会の報告と致します。

(昭和47年卒 海原剣友会幹事長 里村豊)

36会メンバー 今なお健在

滝本 喬

6月初旬の某日、36会の総会を母校で開催した時の話。その一端を紹介する。

◎ハワイから参じた立花幹史郎君。若き日、ハワイに渡り事業を成功させますが、まだホノルルのホテルでボーターをしていた頃のこと。当時、やはり一念発起、アメリカに夢を託した重武茂任君(副会長)が途中、たまたまホノルルに降りて立ち寄ったホテルのロビーで耳にしたのが「タチバナ」の日本語。「ひょっとしたら？」とフロントに確認、案の定、本人だった。その日は夜を徹して語り合ったそう

バンコク海原会 今年ほぼ隔月開催

11月7日、バンコク市内フロンポン地区の「サクラサク」にてバンコク海原会を開催しました。2024年はほぼ隔月開催で、顔ぶれは時



によって変わるもののおおよそ7〜10名程度の参加者でした。東南アジアで活躍する海城OBの典型は「部活中心の高校

生活を送り私立文系の大学に進んだ人」。文字にできないタフな(？)高校生活で培った人間力が武器です。最近の海城生は理系が多いと聞くので、今後世界に羽ばたく海城OBの典型が変化していくなら面白い楽しみだね、等と話合いました。隔月で会っているの、思い出話だけでなく異業種交流の要素も加わっているバンコク海原会。タイに関係している海城OBの方々の声かけをお待ちしております。(昭和62年卒 国井信男)

ですが、海外渡航が稀な時代、その生き方は「人生、予定調和じゃつまらねえ」と語っているようです。

◎盛岡在住の木下紘君は長年、建設会社を率いて岩手の建設業発展に尽力した。その功で昨年、皇居玉鳳殿で天皇ご夫妻の面前で旭日小綬章を受けた由。父方は「鎌倉殿の13人」で知られる鎌倉幕府の御家人和田義盛直系の子孫だそう。36会には高杉晋作の末裔高杉春正君も在籍。時をこえて歴史を彩った人物の子孫が、高校の同窓会で顔を合わせるのもおもしろい奇遇です。

◎元日大芸術学部デザイン学科教授で視覚言語が専門の中島忠家君は「絵言葉は世

バンコク海原会 甲斐先輩の送別会

バンコク海原会の中核メンバーとして長く活躍されていた甲斐健久さん(S58)が帰任されることになり、送別会を開催しました。バンコクの居酒屋のクラサクにて行われた送別会には、バンコクから6名、カ



ンボジアからも小市琢磨さん(H05)が駆けつけるなど、甲斐さんを含め計8名の海城OBが集結しました。海城時代はもちろん、バンコクでの思い出話に花を咲かせ、最後はみんな酔っているのでものごと慎重になりながら甲斐さんを胸上げして会はお開きとなりました。バンコク海原会は今年4回目の会合となりました。来月も開催するかも…。皆様バンコクにお立ち寄りの際は是非お声かけください。(昭和62年卒 国井信男)

プノンペン バンコクにて急遽開催

カンボジアのプノンペン海原会ですが、仕事などで4人のメンバーのうち3人がタイのバンコクにて集まったため、急遽開催することになりました。タイとカンボジアは隣国のため、飛行機やバスでその日のうちに移動することが出来ます。東京の人たちが福岡で集まるよりはお手軽な感じです。コロナ前後でカンボジアの事情はいろいろと変わりました。今日集まった3人は経済の荒波を乗り越えて今日集ま



れた事へ感謝したり、互いをたえ合ったり。中でも、日本人会会長として在留邦人をまとめる小市琢磨くん(平05)の尽力は特筆すべきものがあります。来月はポルト政権樹立から半世紀です。カンボジアは何かと注目される事が多くなりそう予感です。(昭和62年卒 国井信男)

払込取扱票(赤い紙)につきまして

払込取扱票は年会費・永年会費・寄付の払込のために会報に同封しています。

①会報は年2回発行のため、お手元に年2回払込取扱票が届きますが、年会費の払込は年に1度です。②永年会費を納めた方は年会費の納入は不要です。2回目の永年会費や寄付は大歓迎いたします。③永年会費を納めた方から払込取扱票不要の申し出をいただいたことがありますが、封入作業の都合上、ご容赦ください。よろしくお願いいたします。

同期会情報の投稿について

セキュリティ上の理由で海原会のHPには画像を表示できなくしてあります。今は海原会のHPのひろばから投稿すると画像が送れません。

同期会の情報の投稿はトップページ右上の「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」よりお願いいたします。

業種別海原会合同新年会

業種別海原会では1月11日(土)に今年度も合同新年会を開催します。詳細の確認はHPより、申込はQRコードからお願いいたします。



合同新年会
QRコード

【会報バックナンバー 閲覧パスワード】

ホームページの活動レポートから会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはパスワードを設定しております。ユーザー名はkaihouです。パスワードは「oPen:1101」になります。

さようなら旧理科館

新理科館(サイエンスセンター)ができしばらく経ち、来年から旧理科館が取り壊されることになりました。

あの先生がいた旧理科館、廊下から校庭を一望できた旧理科館。OBにはそれぞれの思い出があるでしょう。今年度の見学会の場所は海城学園です。旧理科館にお別れを言うとともに、母校の最新の学習環境を見学しましょう。

詳細の確認はHPより、申込はQRコードからお願いいたします。



旧理科館
QRコード

自薦他薦、海城OBのお店情報をお寄せください。
海腹ゲルメ ①9 新大久保・大久保



粕取焼酎・
古酒泡盛BAR



■最初は紆余曲折

さなぶりは泡盛や粕取り焼酎といった日本の蒸留酒を楽しむ店だ。店主の田崎聡さん(S49)が飲食にたどり着くまでは紆余曲折があった。

田崎さんは海城高校を卒業後、武蔵野美術大学を経てグラフィックデザイナーとなった。その後、おしゃれな青山でデザイン事務所を設立。そんな田崎さんの転機は意外にも重

店では2023年のオープン。物件は海城・武蔵の後輩である富田勝彦さんと一緒に見たのだが、オーナーが「オレも実は海城なんだ。男女共学の世代(S28)でさ」と言われてビックリ。これは縁なんだな、と思いついた。店の名のさなぶりは漢字だと早苗響。田植えが終わったとき

「花粉症だ」という。度の花粉症だったという。に出会い、もつと知りたくなつて30才の時に移住。沖縄でやりたいことにどん

きに粕取り焼酎を飲むこともあったのだという。そして田の肥料に焼酎かすを使っていたとのこと。百姓も田の神も粕取り焼酎が欠かせなかったということか。

■日本の蒸留酒を広めたい
おりしも沖縄が注目される時期であり、『うるま』『沖縄スタイル』といった移住雑誌を手がけ、沖縄

料理をはじめとした食べるものも充実している。おいしく飲んでたくさん食べることができる。力を入れているのはせいり蒸し。野菜の肉巻きを特製のタレをつけて。

栽培・加工・販売までをお手伝いするようになった。NPO法人「食の風」を立ち上げると、農業生産者と消費者を結びつける

「コロナを境に一次会、二次会という流れはなくなった。一次会で楽しくおなかいっぱいになってほしい」と田崎さん。

6次産業の発展を目指した。このころから活動は沖縄を飛び越え日本全国になるのだが、全国各地の酒蔵を巡って支援事業をする中で、沖縄の泡盛と同じ

これからの忘年会新年会のシーンとなる。蒸留酒の良さは翌日残らない明るい酒というところだ。海城にほど近いさなぶりでもびき

蔵を巡って支援事業をする中で、沖縄の泡盛と同じ蒸留という工程のある粕取焼酎と出会う。酒粕から作るこの酒は九州北部の酒という印象があるが、実は日本中の酒蔵で作られている。

り蒸留酒で仲間と一献傾けてはいいだろうか。月金土曜にはソムリエの資格を持つ今井孝英さん(S62)もカウンターに立つ。オール海城なお店だ。

そろそろ腰を据えて日本の蒸留酒の良さを紹介する時期ではなからうか?そういう気持ちで芽生え、田崎さんは50年ぶりに新大久保に戻ってきた。

さなぶりを紹介した動画(YouTube) 新大久保百人町1-16-14 マキパビルB1 大久保駅徒歩2分・新大久保駅徒歩2分 070-3316-11718 営業時間:17:00~23:00(土・日・22:00) 定休日:日曜日 (国井信男 記)



編集担当

森山昭洋 (S41)
小西洋也 (S41)
川田洋之助 (S46)
深田誠 (S53)
国井信男 (S62)
岡本浩太郎 (H02)
樵裕介 (H02)
横嶋良太 (H05)

編集後記

◎仕事、私生活両方で様々な選択を迫られる状況下での執筆でした。でも、だからと言って原稿を書くのが遅い理由にはならないですよ。それから、わがジャイアンツがCSで敗れたショックもあったし。それも原稿が遅い理由にはなりませんね笑。(横嶋)

◎宇都宮、死んでしまおうとは何となく一歩のかかる後輩であったが、先輩に会報で計報欄の人力をさせることは許せぬ。許せないから絶対忘れない。今まで楽しかった。ありがとう。(国井)

◎平成二年卒としては卒業以来の同窓会に参加しました。皆50代前半。この間隔で集まると次は80代後半ですが、それよりは前に再会したいです。(岡本)

◎今年度、クロネコメール便のサービス終了と郵便料金の値上げにより、会報の郵送コストが2回値上がりします。限られた会費の中で大きな割合を占める「会報の持続可能性(サステナビリティ)」を確保するため、配布方法の見直しが必要で。今号は諸事情により執筆には関われませんでした。今後とも会報の持続可能性に貢献していきたいと思えます。(樵)

◎今年はバリオリピック&パラリンピックでのアスリート達、そしてメジャーリーグでの大谷選手活躍に感動し心震える一年でした。理科教育にも力を入れてSTEAM教育を推進する我が母校の躍進ぶりには目を張るものがあります。もしや、STEAMのSにはScienceのみならず、その他による人間形成の意味も込められているのではなからうか。海原会をさらに盛り上げて、逞しくグローバルに活躍しこれからの日本をリードしていく後輩達を会員の皆様と一緒に応援し続けたい。(深田)

(森山)